第4回市民憲章改定案検討会議録（要約）

【開催日時】

平成28年11月14日（月） 13:30～14:30

【開催場所】

木更津市役所 駅前庁舎8階 防災室・会議室

【出席委員】

阿曾委員、池田委員、黒川委員、小関委員、鈴木委員、野田委員、長谷川委員、宮沢委員、渡部委員

【会議の公開・傍聴人について】

公開、傍聴人なし

【会議内容】

以下のとおり

1. 挨拶

渡辺市長から挨拶

2. 議題

（1）市民憲章（素案）について

資料1、資料1-2に基づき、前回の会議を踏まえ、前文でめざすまちの姿を示し、本文は行動規範となるよう内容を整理し取りまとめた素案について、事務局から説明した。併せて、資料2に基づき今後のスケジュールについて説明した。

【主な質疑・意見等】

- 前文は簡潔になり、非常に分かりやすくなったと思う。
- 前文の文章量は、この程度が適当だと思う。
- 資料1の素案と資料1-2の素案を比べると、資料1-2は文頭が「きさらづ」の語呂合わせで、こちらの方が覚えやすいと思う。
- 資料1の本文が7項目あるのは、やはり多いと思う。1項目目は当たり前過ぎて入れる必要があるのか。2項目目は行動指針と言えるのか。3項目目は前文と重複していると思う。資料1-2は文章が難しくて良く分からない印象。資料1の内容の方が良い。
- 前回のたたき台の本文にあった「自ら考え行動する」という意味合いの項目が素案から無くなったが、とても重要な行動規範であると思うが良いのか。
⇒「自ら考え行動する」という意味合いは、素案の7項目目の「奉仕の気持ち」に包含していると考えている。奉仕は言い換えるとボランティアであり、主体的な行動につながっていると思う。
- 本文は7項目だが、一文が短くて分かりやすいと思う。「自ら考え行動する」という意味

合いについては、全てにおいて当てはまるものだと思うので、あえて1項目に限定して表現する必要は無いと思う。

●素案の前文の2段落目の「私たちは」を例えば「一人ひとりが」に修正すれば、「自ら考え行動する」という意味合いが、本文の各項目に及ぶのではないか。

●1、2、3項目目は、残す必要があるのか。5、6項目目も意味合いが近い気がする。

⇒5項目目の「共生」と6項目目の「地域」については、委員からも重要な観点である旨ご意見もいただいているので、両方とも盛り込みたいと考えている。

●3項目目の「伝統・文化」は前文にも記述されている中で、本文にも必要か。

⇒前文は現在までの状況について記述したもので、本文はこれからの行動規範である。

●本文は3項目程度に絞るべきだと考える。3つにすると語呂合わせにもつながりやすいと思う。それ位の方が、子どもたちにも分かりやすいと思う。

●無理に合体させていくと、本当に言いたいことの意味合いが薄れていく。単に短くすれば良いというものではなく、問題は中身だと思うので、1文1文が簡潔な7項目が良いと思う。

⇒資料1の前文については、2段落目の文頭の「私たちは」を「一人ひとりが」に修正する。本文については資料1のとおり7項目をもって素案とする。座長確認のうえ、最終的な素案を各委員に送信する。その後の庁内の会議等において修正がなされる可能性があることについても説明。

(2) その他

次回は、平成29年1月23日(月)開催予定。意見公募結果等を踏まえた最終案について意見を伺う。